

「農業・農村で幸せになろうよ」を

出版して

慶應義塾大学大学院SDM研究科特任教授
北海道大学大学院農学研究院客員教授

林 美香子

ると同時に、やりがい高め、農家の応援団づくりの効果もあると話している。

一言で表現すると「幸せ」という言葉

この考え方を多くの方たちに伝えたいと願い、これまでの調査・視察などで出会った農業者や専門家、実践者の方たちと多角的に語る対談集「農業・農村で幸せになろうよ」農都共生に向けて」(安曇出版)を、このほど出版した。

広々とした空間、新鮮な空気、美しい農村景観、おいしい食べ物、素朴で温かな人たちとの交流……。

農村地帯を訪れると、都会では味わえない癒しの力や、暮らしの豊かさを感じる。そして、なんと幸せな気持ちになることだろう。慶應大学

農村と都市をトータルに捉える

最近はおかしくないほど、各マスコミで、家庭菜園や農産物直売所が話題として取り上げられている。都会の人たちが農業・農村への関心を高めているのは喜ばしいことだ。農家のみなさんはどのようにお感じなのだろうか。

成熟社会を迎え、新しい地域づくりの在り方が問われている。農村と都市の地域政策を個別に考えることが多かった日本だが、地域活性化のためには、農村と都市をト

ータルに捉える「農都共生」農村と都市の共生」が大切と考えている。

農都共生による地域活性化を、慶應義塾大学大学院SDM研究科で研究し、農都共生研究会で実践活動を行っている。農都共生の推進は、私のライフワークであり、各地の講演会でも強く訴えている。都会の人たちには、「農村でゆつくりと過ごすグリーンツーリズムを楽しもう」農村へ出かけよう」と呼びかけている。

一方、農家の人々には、グリーンツーリズムが農村のコミュニティビジネスとして副収入にな



林 美香子 プロフィール

札幌生まれ。北海道大学農学部卒業後、札幌テレビ放送株式会社にアナウンサーとして入社。退社後、キャスターに。エフエム北海道「ミカマガジン」出演の他、執筆活動も。「食」「農業」「環境」「地域づくり」などのフォーラムにパネリスト・コーディネーターとしても参加。「農村と都市の共生による地域再生」の研究で北海道大学大学院にて、博士(工学)を取得。現在は、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科特任教授。北海道大学大学院農学研究院客員教授。著書に「農村へ出かけよう」(寿郎社)「農業・農村で幸せになろうよ」(安曇出版)など多数。札幌在住。



農村地帯を訪れると、都会では味わえない癒しの力や、暮らしの豊かさを感じる

で、幸せをテーマに研究する先生たちと交流するうちに、農業・農村の持つ多面的機能を一言で表現する「幸せ」という言葉になるのではないかと思うようになり、本のタイトルに入れたのである。

幸せな社会に つながっていく道筋

都市住民のライフスタイルが変化し、「物質的豊かさ」より「心の豊かさ」を重視する人や、レジャー・余暇に生活の力点を置く人が増え、農業・農村への関心が高まっている今こそ、農都共生を推進する絶好のチャンスだと思う。都市側には、楽しみや心の豊

かさなどの恩恵があり、農村側には、いきがいや副収入をもたらすなど、双方への効果がある。農都共生活動による、「情報の循環」「人材の循環」「経済の循環」が、農村・都市の双方に活力をもたらし、

地域の持続可能性、そして幸せな社会につながっていく道筋について、対談者と語り合った。

対談に登場いただいたのは、山梨のNPO「えがおつながり」代表・

曾根原久司さん、東京都練馬区で指導付き市民農園を運営する農家の白石好孝さん、宮城県「鳴子の米プロジェクト」を推進する板垣幸寿さん、農業と観光の融合を目指す観光カリスマでホテル経営者の大西雅之さん、「フードバレーと

かち」に力を入れる帯広市長・米沢則寿さんなど、さまざまな分野で活躍する方たち。地域の産業である農業の素晴らしさをどう生かし、どう伝えていくかの知恵と工夫を熱く語ってもらうことができた。

NPOによる農業・地域づくりを実践している曾根原さんは、今年の日本農業賞「食の架け橋の部」大賞を受賞。都会から農村へ移住し、耕作放棄地を開墾し、自給的農家となったあと、NPOを設立。企業と連携した企業ファーム運営という新しい農業スタイルをつくり上げ、成果を上げている。

企業にとっては、CSR（企業の社会的責任）や社員の福利厚生、人材育成に効果があり、地域に

とっては、耕作放棄地が農地として甦り、農作物販売などによる経済循環、雇用の創出、都会の人との交流による活性化など、さまざまな効果が出ている。

また、対談の他に、慶應アグリゼミ修了者たちとの農業の未来について考える座談会や、食農教育、ヨーロッパの農都共生、農村でのコミュニティビジネスなどのコラムも掲載している。

農業・農村への関心の高まり

この本の出版後、東京、札幌で出版記念の講演会を開催した。東京では、滋賀県、鹿児島県など遠方からの受講者や、農業法人、不動産会社、機械メーカーなど多様な業種からの参加があり、また札幌では、全国各地の農家、行政関係者などの参加もあり、今まで以上に農業・農村への関心の高まりが感じられた。

この「農業・農村で幸せになるうよ」をお読みいただき、ひとりでも多くの方たちに、農業理解が深まり、心の豊かさや幸せを感じるヒントをつかんでいただけたらと願っている。



慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科の十勝視察から（千年の森にて）。写真左から2人目が筆者